

平成28年度 尼崎市立武庫庄小学校 学校評価

実践目標	取り組み項目	具体的な手だてと成果・課題 ◎効果があった実践 ■改善をすべきこと ★新しくやるべきこと	来年度に向けての改善策	職員自己評価	学校関係者評価による 評価内容についての意見
ア 自立して自ら学び続ける力を育てる ～未来を切り拓くために～					
授業やカリキュラムを工夫し、将来に向けて自主的・意欲的に学ぶ態度を育成し、課題の発見や解決に向けて主体的・協働的に取り組ませる。	①学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れ、主体的・自立的・協働的に学ぶ態度を育む。 ②目標・内容・つけたい力を系統立てた総合的な学習の時間のカリキュラムを整備し、探究への意欲や課題解決能力を育む。 ③キッズイングリッシュ等で、学習意欲や興味、関心を高めるような長期休業中の学習活動を充実させる。	◎ 国語のみならず、主要四教科において「めあて」「ふり返り」を毎時間書き、こまめにチェックすることで、子どもの理解度や疑問などを把握するめやすになると改めて感じる事ができた。 ◎ 学習の見通しについては、心がけるように気をつけた。流れを提示したり（単元の）、今日学習することの流れを言ったりすることで、目的を持って取り組めるようになったと思う。 ◎ 毎授業、ふり返りを書かせることで、教師側も本時のめあてを達成させられる授業内容であったかとふり返ることができる。 ◎ めあて → 本時の学習 → ふり返りという学習がパターン化し、見通しをもって学習に取り組むことができるようになった。 ◎ 理科、社会などでは、自分なりのノートまとめをし、友だちのノートのよいところを取り入れさせることで、一人ひとりのまとめる力が少しずつ伸びたと思う。 ■ 主体的・自立的な学習態度はまだまだ育むことができていない。 ■ ◎ 夏休みのキッズイングリッシュはこれからの英語教育の一貫とも考えると、毎夏、固定的に持続していく方向で取り組みたい。 ◎ 夏休みの学習会は希望児童を受け入れることができ、成果があがった。	■ 主体的・自立的な学習習慣を作るため、「学習の手引き」を配布し、活用していきます。 ■ 「夏休み学習会」は、基礎学力の充実に重点を置いて取り組みます。 ■ キッズイングリッシュをますます充実させます。	2.9	・主体的な自立的な力や態度を育てるのは難しい。まず、目標をしっかりもたせ、目標に向かって何をどうがんばればいいのか、子どもたちに明確につかませることが大切である。 ・「学習の手引き」の配布、活用はとてもいいことだ。低中高学年の手引きがあがっているため、先の学年への見通しや、学年の到達目標などがわかりやすくすてよい。 ・「学習の手引き」の構成だが、例えば、中学年は中学年のページが先に来て、その後、低学年→高学年とまとめたほうが使いやすいのではないかと。
全ての領域で「ことばの力」を高める活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の向上を図る。	①ペア・グループ・全体と、目的に応じて学習形態を工夫した話し合い活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ②子ども自身が自ら話し合いたい、考えたい、調べたい、伝えたいと思えるような課題や場の設定を工夫する。	◎ グループワークができるようになったが、もっと積極的に話し合いをさせるために工夫が必要だと感じた。子ども達が話したくなるような課題設定が必要だと思う。 ◎ 学習内容に合わせて形態を工夫することで、全体ではなかなか意見が言えない児童も生き生きと学習に参加することができた。 ■ グループ活動があまりうまくいかなかった。積極的に意見を言える子だけで話し合いが進んでしまう。 ◎ ペア活動は多く取り入れた。友だちに話すことで、自信がもてて発表しやすくなったようだ。 ◎ ペアグループ活動は、どの教科においても取り組み、よく話し合いができていた。 ◎ ペア・グループ・全体と目的に応じて話し合い活動を取り入れることで、子ども達が話すことに少しづつ慣れてきたように思うが、今後、子ども達の自主的な学びへどうつなげるかを考えていくことが必要になってくる。 ◎ 語彙力を高めなければならないわたひの児童にとって「辞書ひきコンテスト」があったことで「ことば」に興味を持ち、分からない言葉は辞書を使って調べようという意欲が少し増えてきた。（特別支援学級） ◎ 朝の会のスピーチタイムで一人ずつ前に出て、前日に経験したことなどを話す機会を作っている。注目されるのが苦手な児童も、メモを手掛かりにしてスピーチができるようになった。	■ 一人学習、ペア活動、グループ活動、全体学習と学習のねらいと内容に応じた工夫と改善に取り組んでいます。	2.9	・発表したいという意識付けが大切である。 ・英語の学習が始まるが、まず、日本語の力をしっかりつけることが大事である。誰が指導するのか、評価はどのようにするのかなど、課題も多い。先生の大変さもよくわかる。
学力実態を分析し、学力向上に組織的に取り組む。特に、家庭との連携を強化し、自立的な学びの習慣化を図る。	①学力実態の分析や、学力向上プラン実施について、学力向上委員会を中心として組織的に取り組む。 ②家庭との連携を強め、自立的な学びの習慣化に徹底的に取り組む。 ③ノートのまとめ方、予習・復習の仕方など学習方法の指導にも力を入れ、自立的な学びを奨励する。	◎ 生活点検が良いという声を保護者からよく聞きます。 ◎ 低学年の子にわかりやすい「できたよの印」をつけることで、意欲的に自立的な学びをするようになった。 ◎ 学力向上のための家庭学習の手引きが作成されたことはよいことだと思う。 ■ 予習までさせることができなかった。予習の仕方も教えて、決められている家庭学習の時間は学習に取り組めるようにさせたい。 ◎ スタディプランを活用することで、一週間の予定を把握し、見通しを持つことができた。 ■ 自主学習においては内容的にも課題があり、放課後の活動が忙しい本校の子ども達にとってはなかなか定着させにくいと感じる。 ◎ 授業の中で苦手な部分、上手くいった指導の方法などを連絡帳で連絡をとることで、保護者と共通理解し、学力向上につなげることができた。 ■ 長期休みをはさむと、できていたことができなくなってしまうことがある。家庭への働きかけを増やすなど改善できればと思う。 ◎ 家庭の協力もあり、基礎学力の定着度が高いと思う。 ■ 学力テストの分析を本校の学習指導にもっと活かしたらよいと思う。	。	2.7	・「学習の手引き」の配布、活用はとてもいいことだ。低中高学年の手引きがあがっているため、先の学年への見通しや、学年の到達目標などがわかりやすくすてよい。 ・「学習の手引き」の構成だが、例えば、中学年は中学年のページが先に来て、その後、低学年→高学年とまとめたほうが使いやすいのではないかと。
イ 豊かな心を育てる ～未来をよりよく生きるために～					
夢や自尊感情を持たせ、自己実現の意識を育むとともに、家庭や地域と連携しながら規範意識や自己指導能力を育成する。	①夢や目標を常に意識させる仕掛けを工夫する。 ②体験的な活動を充実させ、チャレンジして乗り越えたときの達成感や充実感を味わわせる。（キャリア教育の充実に向けて） ③自分や他人のいいところを見つけ、学年を越えた活動、地域との協働など、他者との関わりを機会を増やしていく。 ④内省による自己指導能力を育てる方向で生活点検を活用していく。	◎ 生活科や道徳の学習を通じて自分や友だちのいいところ気づかせ、自尊感情を高める取り組みを行った。 ◎ この地域は保護者も含めて、とても協力的であるので、地域の方々もたくさん学習に入っていただけいる現状を大切にしていきたい。 ◎ 子どもたちの良いところは積極的にほめ、自信を持てるように心がけている。 ◎ 終わりの会で「キラリとがんばった人」を発表する活動を通して、友だちのよいところを見つけ、それを認めたり、自分のよいところに気づいたりすることで、自信につながっているように感じた。 ■ 自分のいいところみつけをした際、ほとんどの児童が悩んでいた。教師や他の児童からよいところを認め、ほめる時間を設けているが、なかなか自己肯定感を上げることができず苦勞している。 ◎ 総合的な学習の2分の1成人式に向けての取り組みの中で自分を見つめ、自分のいいところを見つけたり、家族や友だち、周りの人に感謝の気持ちを持ついい機会となった。 ◎ 掲示物を工夫し、視覚化したり、様々な読み物に触れ、自分の目標を意識できるように考えた。また、キャリア教育にも関連づけ、取り組むことができた。 ◎ 生活点検をすることで、家庭で生活を見直し話し合う機会になっていると思う。 ■ 児童に任せてチャレンジさせる場面を多く取り入れたい。	★ 児童全員と担任が話し合う機会を確保し、より深い児童理解に基づく指導に取り組めます。 ■ 「学習の手引き（小冊子）」に「生活点検」を盛り込み、継続的な自己点検の取り組みを推進します。 ■ キャリア教育の推進に向けて、組織や取り組みを充実させます。	2.9	・親子で生活のみつめ直す生活点検はとてもいいことだ。項目や内容を絞って毎日つけさせれば、習慣づけのためにはいいと思う。ただし、先生方の負担とならないようにはしたい。 ・中学校では、すでに先生方と生徒がじっくり話し合う場が設けられている。いじめを防止するにはいい取り組みである。

実践目標	取り組み項目	具体的な手だてと成果・課題 ◎効果があった実践 ■改善をすべきこと ★新しくやるべきこと	来年度に向けての改善策	職員自己評価 平均(4段階)	学校関係者評価による 評価内容についての意見
イ 豊かな心を育てる ～未来をよりよく生きるために～	①ビオトープを活用し、授業で意図的に使ったり、関わらせたりする。管理が大切なので、仕組みづくりを工夫する。 ②あいさつの在り方について共通理解を図り、一貫した指導を行う。	◎ ビオトープを改善（カワバタモロコの放流など）が行われてよかったですと思います。子ども達も生き物に興味をよくもっていたと感じました。 ■ ビオトープを活用できるような学習計画を立てるようにしたい。 ◎ 大根を育て、子ども達の植物への関心が広がった。 ◎ あいさつ週間を設けることで、あいさつに対する意識が高くなったように思う。 ■ あいさつ運動の時だけでなく、普段から当番を決めて、少しの人数ずつでも教師が門であいさつをしてはどうか。 ◎ 校門のところでは、あいさつがとて多くなったし、校内でのあいさつも少しずつ増えてきたが、自主的なあいさつはまだ少ない。 ◎ 職員室などへの入室時、用件を言える児童が増えてきた。 ◎ あいさつ運動やあいさつ名人の表彰などの活動を通して、少しずつ自分からあいさつができる児童が増えてきた。 ■ あいさつ運動をしている時などは、よくあいさつしてくれるが、校内で会った時のあいさつや来校者のあいさつができていない気がする。表彰の返事もまだまだ小さい気がする。 ◎ 給食を取りに行く際に大きい学年が下の学年に道をゆずったり、「ありがとうございます」と言えたりしていることがとてもよかった。 ◎ 道徳の授業をきちんと行うことで命を尊ぶ心、よりよい人間関係について子ども達と考えることができた。	★ビオトープを活用できる手立てを充実させます。 ★ビオトープをどのように授業に活用することができるか、わかりやすい資料を作り、共有していきます。 ★来年度は朝のあいさつ当番（職員）の人数を減らし、回数を増やしていきます。 ★道徳の特別な教科化にむけて、研究していきます。	2.6	・ビオトープの管理や学習の手伝いなどは、地域の方(ボランティア)のお世話になればいいのではないかと。学習では、専門性のある方に教えてもらえばいい。ビオトープの指導の指針や基準などがはっきりしていれば、手伝ってくれる人はいるはずだ。 ・あいさつについては、校内ではお互いにあいさつしていこうという取り組みがあまりできていない。地域では誰にでもあいさつするというのは、問題があり、難しい。あいさつをするという意味をしっかりと考えさせたい。
ウ 健やかな体を育てる ～未来をたくましく生き抜くために～	①系統性を意識した学年毎の食育カリキュラムを作成する。 ②給食の献立に関する情報を毎日児童に提供し、食や健康に関する意識の向上を図る。 ③「夏休み講座（親子クッキング）」、「ごはん塾」等、食に関する情報を親子で同時に共有できるような機会を工夫する。	◎ 毎日の給食の放送を子ども達が楽しみにしている。給食の完食にもつながっている。 ◎ 給食の放送がありがたい。いつも栄養について確認でき、食に関するいろいろな知識を得ることができる。 ◎ ランチルームでの給食や毎日の放送など、食育が充実していると思う。 ◎ 給食時、必ず配膳の仕方、食器の置き方などクラスで確認し合い、マナーについてよく話し合いをした。 ■ 遅れて返す児童がマナーを守るように指導をお願いしたい。 ◎ 全体的に残食が少なく、担任の先生方の指導の成果がでている。 ◎ 担任不在時には、給食時間は必ず他の先生が教室に行って下さるので安心できる。 ◎ 今年度の保護者対象の食育の講演会と5年生対象の「ごはん塾」はとても良かったと思います。	■出前授業等の内容を検討します。	3.3	・食育についての評価は妥当である。
自らの身体や健康について関心を持たせたり、計画的な体育・スポーツ活動を通じて運動する楽しさや喜びを味わせたりすることにより、体力の向上や健康の増進を図る。	①体育のカリキュラムの系統性を再検討する。 ②休み時間に、外遊びを奨励するはたらきかけを学校全体として取り組む。	◎ 体育のカリキュラムの系統性の検討は必要であると感じる。 ◎ 体育委員会の外遊び企画はとてもよい。 ◎ なわとび大会やおにごっこ、マラソン大会の改善など武庫庄らしい取り組みを続けていきたい。 ◎ 体育委員が行ったみんな遊びは、体を動かすことの喜びを感じさせるものとなった。また、学年を超えた縦のつながりもできていた。 ◎ 休み時間は外と一緒に遊びに行くことで、子ども達も外に出るようになった。 ◎ 校内バスケットボール大会に向けて、ほぼ全員が自主的に運動場（体育館）へ行った。 ■ 休み時間は、体調不良でない限り外に出るように声をかけているが、教室で過ごす児童もまだ多い。 ◎ チャレンジなわとびでは、どのクラスも外でよく休み時間に練習していた。 ■ 寒くなり外遊びが減っているので、外遊びが楽しいと感じられるよう働きかけたい。 ■ ほとんど外で遊ばない子をどうしていくかが課題。 ◎ 自分でできるけがの手当てや体温の測り方など具体的に保健指導したことで、傷を洗って来室する児童や、体温を正しく測ろうとする児童が増えた。担任の先生方から児童への声かけもあり、効果的だったと思う。	■チャレンジなわとびは継続して取り組んでいきます。 ◎全校ふえ鬼大会などを実施することで子ども達の意識も変わっていくと思われま。回数を増やすことを検討します。 ■体育の来年度のカリキュラムをを3月中に検討します。 ★持久走の指導時期には、マラソン大会への参加も含めて、参加願いをとる。	3.1	・組体操については依然課題があり、実施が難しくなっている。段数や高さを制限しているところもあるが、軽易な種目でめげをするときはする。
エ 信頼され魅力ある学校をつくる ～未来に向けた地域協働のために～	①火災や地震を想定した防災訓練を計画的に実施する。 ②不審者侵入を想定した防犯訓練を実施する。 ③ケータイ（スマホ）や、ネットとの正しい関わり方を学ぶ講習や講演会を親子で受ける機会を作る。 ④交通安全協会の指導のもとに、自転車教室を3年生対象に実施する。	■ 道徳（情報モラル）研修は保護者の部への参加者が少ないことが毎年、気になる。 ■ 道徳講演会を行って下さっているのに、是非聞いていただきたい。保護者の参加率が低く気になりました。 ★ 休み時間の防災訓練等も必要だと思う。 ◎ ■ 不審者侵入の防犯訓練は、これから毎年行いながら、よりよくしていく方向で進めたい。 ◎ 不審者侵入を想定した訓練はとてもよかった。日頃から危機管理の必要性を再認識させてくれるものだった。 ◎ 1. 17防災訓練では、津波を意識した三次避難まで行っていたのがよかった。 ★ 地震が起きた時に避難所になることも考えられるので保護者や地域の方にも参加してもらえようような訓練も考えていくことも必要だと思う。 ◎ 道徳講演会での話が具体的に児童にもわかりやすく、インターネットに潜む危険について、改めて確認することができた。これからも続けてほしい。 ◎ 引き渡しカードを使って訓練が行えたのがよかった。見えてきた問題点をより良い形へ改善したい。	★防災訓練に保護者、地域の方へ参加してもらいます。 ■引き渡しカードを工夫、改善します。 ■不審者対応についての防犯訓練（職員）を継続、充実させます。 ★道徳（情報モラル）研修の保護者の部は設けません。子ども達と一緒に講話を聞いてもらいます。	3.1	・地域の社協に協力してもらえば、地域との連携による防災訓練ができる。 ・不審者対策訓練は先生方の危機意識が高まり、とてもよい。
積極的に情報を発信して保護者や地域とのつながりを深めるとともに、学校評価を活用してPDCAサイクルに基づいた改善と結果公表を行い、魅力ある学校づくりを行う。	①学校の方針を積極的に打ち出し、寄せられた意見をチェック、分析して改善に役立てる。 ②参観・懇談、オープンスクール、学校・学年通信、ホームページ等を効果的な情報発信の場ととらえ、積極的に活用する。その際、個人情報の保護に注意を払う。	■ H P の更新ができていない。 ◎ 定期的なアンケートも行い、オープンスクールも毎学期取り組んでおり、開かれた学校として努力できていると思う。 ◎ 学校からの情報発信は、学校だより、学年だより、保健だより、給食だよりなど丁寧に行われていると思う。その他参観、懇談、オープンスクールも土曜日や祝日にもとり、適切だと思う。 ★ 保護者アンケートは記名にしてはどうか。配慮不足があったら具体的な改善策を考え、行動することで保護者の思いに寄り添えると思う。 ◎ わたひの連絡帳でその日のことを連絡することで保護者との関係づくりにも役立っている。	★学校H P に学校行事、学年の活動などアップするように努めます。 ★保護者アンケートに、記名する枠を設けます。（記名、無記名は任意です）	2.8	・学校ホームページの充実に期待したい。
教職員一人一人がプロの教師としての力量を高めながら、共に高まり合う研修も行う「学び続ける組織」であることにより、保護者や地域から信頼され共に伸びる学校を目指す。	①急激な世代交代に備え、優れた講師を招聘したり、ベテラン教職員が指導技術を伝承したりするなど、若手教職員の育成を中心に学校全体で学び合う機会をつくる。 ②特別支援教育等、課題に応じた研修会をもつ。 ③若手教職員による学年を越えた勉強会や、さらに他校の日常的な授業を見る機会など、研修の幅を広げる。	◎ 英語研修会がとてもよかった。今後の見通しや学習活動について勉強になった。 ◎ 今年度、全教員公開授業を行っていただき、たくさんの先生の授業を見ることができ、大変学びとなりました。 ◎ 一人一授業でいろいろな先生の授業を見ることができた。 ◎ 研究会にも休日にもかかわらず積極的に参加し、勉強する方が増えたと思う。 ◎ 勉強会、研究授業に参加し、新しい発見が多い。 ◎ 学年のベテランの先生にたくさん教えていただき、非常に勉強になっている。 ◎ 学年を超えて授業を見合い、勉強できているように思います。	★一人一授業公開（職員同士）を継続します。 ★研究会に参加した研修の成果等は報告し合います。 ■地域の行事に積極的に参加します。	3.0	・公開授業が増え、先生方の中には、自習が多くなるという反省もあるようだが、自分で課題を見つけて学習する機会も大事である。